

神戸大学交響楽団 第48回定期演奏会

PROGRAM

喜歌劇 「こうもり」 序曲 シュトラウス

Die Fledermaus ouvertüre Uohann Strauss

指揮 浅 野 亮 介 コンサートマスター 石井 真郷

交響曲第7番 嬰ハ短調 作品131 プロコフィエフ

Symphony No.7 in C Sharp Minor, Op. 131 Sergej Prokofjew

- 1. Moderato
- 2. Allegretto

3.Andante espressivo 4.Vivace

指揮 ヴィヤチェスラフ・プラソロフ コンサートミストレス 木 村 有 里

一休憩—

交響曲第6番 ロ短調 作品74 「悲愴」 チャイコフスキー Symphony No.6 in B Minor, Op. 74 [PATHÉTIQUE] Peter Ilyich Tchaikovsky

- Adagio-Allegro non troppo
 Allegro con grazia
 Allegro molto vivace
 Finale. Adagio lamentoso-Andante
- 指揮 ヴィヤチェスラフ・プラソロフ コンサートマスター 林 康一郎

日 時:1998年12月11日(金) 19:00開演

場 所:尼崎市総合文化センター・アルカイックホール 後援 兵庫県・神戸市民文化振興財団・兵庫県オーケストラ協議会・神戸新聞社



_{客演指揮} ヴィヤチェスラフ・プラソロフ

1955年、西シベリアのプロコピエフスクに生まれ、当時シベリア随一の学術文化都市として知られていたノヴォシビルスクの音楽院で学ぶ。札幌交響楽団に客演したことで日本でも有名なアルノルド・カッツ氏に指揮を師事した彼は、卒業後も同音楽院に残り、1981年から5年間教鞭をとると同時に、ノヴォシビルスクの劇場指揮者としてデビューを飾る。1986年にはケメロボ歌劇場、そしてボルガ川近辺に位置するマリニエル自治共和国(首都ヨシカルオラ)の国立歌劇場主席指揮者に就任し、現在に至っている。

プラソロフ氏はオペラのみならず、交響曲その他管弦楽曲においても冴えた手腕を発揮し、その巧みで情感溢れる指揮 ぶりは、ミンスク、ウファ、ウラジオストック、キエフなどロシア各都市でも評価を得ている。

最後に、かのロジェストヴェンスキー氏が審査委員長をつとめた1988年、最後の全ソ連指揮者コンクールでプラソロフ氏が入賞したことも、彼の洗練された実力を裏付けるものとなっている。



副指揮 蔵 野 雅 彦

京都市立堀川高校音楽科を経て、1979年東京芸術大学音楽学部卒業。トランペット、指揮を学ぶ。89年より本格的な指揮活動を開始。92年キエフ・ウクライナ・ナショナル交響楽団に客演、マーラー交響曲「巨人」等を指揮プロデビューを飾る。KBSTV「京の響」出演。93年ロシア・マリ=エル国立歌劇場でヴェルディ「椿姫」を指揮しオペラデビュー。同年キエフ国立シェフチェンコ歌劇場に客演、チャイコフスキー「悲愴」等を指揮、ウクライナ全国に放送され絶賛を博す。以後海外よりの招聘も多く、98年には同志社交響楽団とともに渡独。ミュンヘン、ビュルツブルクで公演、満場のスタンディングオベイションを受ける。97年ラフマニノフ交響曲第2番を中心としたCDを録音発表し好評を得る。

国内では京都市交響楽団、大阪市音楽団をはじめ多くのオーケストラを指揮。指揮を伊吹新一、田中良和の両氏に師事。 現在青山音楽賞評議員。

トレーナーの先生方

ギオルギ・バブアゼ(大阪シンフォニカー・コンサートマスター)

東 谷 慶 太 (ホルン奏者)

宮 村 聡 (京都市交響楽団・主席トランペット奏者)

以上の先生方にご指導頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。